

# お米のおいしさをサポート ～ 深川米低蛋白化推進運動への関わり～

## 【概要】

深川米低蛋白化推進運動は、3年以内に深川市の低蛋白米を30%以上生産出荷し、ガイドライン7ランクを達成することを目標としています。運動本部はJAきたそらちの早崎専務を本部長とし、深川市、空知農業改良普及センター北空知支所、営農組合長連絡協議会、深川市稲作経営研究会、深川ぬくもり米生産組合、深川市内酒米生産組合、深川市農民協議会、深川市農村青年部協議会によって構成され、平成16年7月より当財団もアドバイザーとして参加し、低蛋白米生産の取り組みを支援しています。

## 【お米のタンパク値】



## 土壌中の可給態窒素の診断

稲を刈り取った後の土壌中窒素の濃度から、翌年の最適な窒素施肥量を定めることができます。低蛋白米を収穫する場合には窒素が少ない方が有利ですが、収量が極端に少なくなならないよう工夫する必要があります。生育初期には十分に窒素を吸収させ、穂が出る時期にはあまり窒素を吸収しないよう、播種時期を遅らせるなどの手法があります。

財団ではH16年に1600点、H17年に1300点の診断を行い、低蛋白化推進運動をサポートしています。

## 土壌診断のようす



前処理



培養（1週間）



発色



測定（分光光度計）